

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	ほっとむらかみグループホーム
(ユニット名)	三面庵
所在地 (県・市町村名)	新潟県村上市
記入者名 (管理者)	高橋 裕美
記入日	平成 20 年 2 月 15 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設前に職員全員で考えた。お一人お一人の個性を尊重して、家族のように支え、寄り添って行きたいという思いで作った。玄関、居間など見やすいところに張り、常に意識するようにしている。		理念について話し合う場を設けたい。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を職員の目にとまるところに明示している。個々の職員が念頭において取り組んでいる。		期間を決めて自己評価するようにする。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進会議では、区長さんや地区の民生委員さんに事業所の理念はお話させてもらっているが、ご家族様にはお話ししてもらわなかった。		全職員が家族、地域とかかわりを持ち、理解してもらえように行きたい。
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩やゴミだしのときにあいさつしているが、気軽に立ち寄ってもらうところまではお付き合いができていない。		入居者様にももっと地域の人々と関わりあうようになってもらいたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会の行事にはできる限り参加している(お祭り、運動会)またゴミ当番等も参加し、地域の一員として活動させてもらっている。		入居者様ももっと参加できるようにしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ほとんど取り組んでいない。		職員会議で話し合う場を設け、地域貢献できるように取り組んでいきたい。市町村合併後、広範囲になるので地域交流を活性化することから始めたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	初めての外部評価である職員がほとんどであるため、まだまだ理解不足である職員もいると思われるが自己評価によって改めて意識して取り組んでいくことができる。		評価の結果を生かして行きたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議においてはホームの現況やひやり・ハットの記録、地域との交流、運営上の問題点についての取り組みを報告し、意見を求めている。重要な意見等は職員にも周知しサービス向上に生かすようにしている。		職員に議事録も読んでもらい、理解を深め、意見を述べてもらいようにしていきたい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	家族介護者教室に参加し、これからの市の高齢者へのかかわり方などを担当者と話し合うことができた。		これからも市と連携を密にし、サービスの向上となるよう取り組んでいきたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者は研修に参加している。まだ必要と思われる人がいないため生かしていない。		職員も研修に参加する機会を作り、知識を習得するようにしていきたい。また、施設内でも学ぶ機会を作っていきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修としての学ぶ機会はほとんど無いが各々が意識を得ていると思う。虐待防止に注意し、努めている。		知識としてももっと学んで行きたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約書、重要事項説明書に基づいてご家族に説明している。不明な点は納得されるまで説明させていただいている。</p>	<p>管理者だけでなく、他の職員も基本的なことを理解し、お話できるようにしている。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>本社からの月の請求書にアンケート用紙を同封し、サービスへの苦情、不満を書きいただいている。また、面会にいらしたご家族からお話を聞くようにしている。いただいた要望は都度検討し、改善している。</p>	<p>利用者様から直接意見、不満、苦情が聞きだせるような環境を作って行きたい。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>2ヶ月に一回発行している広報で大まかなことはお知らせしているが、個人的には面会にいらしたときに近況を報告(主に管理者)している程度である。金銭管理はお小遣いをお預かりするときに、出納帳をみていただいている。</p>	<p>広報にもっと施設での様子をわかりやすく載せていきたい。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議ではご家族の代表の方から直接意見等をお聞きできるが他のご家族はアンケートに記入いただくことしかできていないと思う。契約の時には苦情相談窓口の説明をしている。</p>	<p>これから職員で検討していきたい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>日ごろからコミュニケーションをとるように心掛け、問いかけたり聞き出したりしている。定期的に個別面談やミーティングを行い意見や提案を聞くようにしている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>必要に応じて勤務調整ができるように、休みの職員といつでも連絡が取れるようにしている。また日勤勤務者が緊急の病院受診等に対応している。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動や交替は必要最小限に抑え、ご利用者と職員、ご家族と職員の間に関係と信頼関係が築けるように努力している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部で研修に職員が受講できるようにええ計らい、職員会議にて研修の報告を行い研修内容を共有している。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設への見学や交流を通じて、他事業所の意見等も取り入れてサービスの向上に活かしている。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	定期的にあるいは必要に応じて個別の面談を行い業務上の悩みや職場に対する思いを聴き取り職員のストレス軽減を図っている。またその要望や意見を働きやすい職場作りに活かしている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	定期的に勤務の考課と自己評価を実施し職員の勤務状況の把握に努めている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初期の面談・相談は管理者が行う。記録・ケアプラン等で本人を知るとともに接しながら傾聴し受け止め、理解する努力をしている。		受け止める努力はしているが、まだ信頼関係にまで至っていない人もいらっしゃるの、もっと努めていきたい。
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族のお話を傾聴し、理解し、受け止める努力している。また面会に来られた時にもお話ができる雰囲気を作るように努力している。		今後ももっと率直な意見等が聞けるように努めていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	外部で研修に職員が受講できるようにええ計らい、職員会議にて研修の報告を行い研修内容を共有している。		ご本人、ご家族の思いを敏感に察することができるようにしていきたい。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	今までご本人が使用していた物を持ってきてもらい、家庭的な雰囲気を作っている。また、入居されてからご家族と色々相談させてもらっている。		入居者様同士、馴染まれていなく、疎外感を受けている言動も見受けられるので全体を通して和める雰囲気を作りたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者様から昔のことを教えていただいたりして「学ぼう」という姿勢が見られる。		もっとゆっくりお話ししたり、相談し合えるように努力したい。また共に「喜び」を見出していきたい。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られたご家族と話すようにしている。入居者様の細かいことも報告させていただき、情報も共有するように努めている。		職員がご家族に遠慮しないでお話できるようになっていきたい。また、面会の時をもっと活用していきたい。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居すると疎遠になってしまうご家族に受診の願いや行事にお誘いしてご本人との良い関係が築いていけるように努めている。		これからも少しでも多く、ご本人とご家族との公流を増やせるように考えていきたい。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在はご本人の希望があれば支援している。(馴染みの床屋さんにお連れしたり、家の近くまでドライブに行くなど)		施設での他入居者さんや職員との関係を構築して新しい馴染みの関係を作る方法も考えられる。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員が間に入り、話を持ちかけたり、入居者様同士が、互いに手伝いあえるように工夫しているが、他人に無関心だったり、うまくコミュニケーションが取れない方もいらっしゃるので、困難である。		職員で話しあい、取り組んでいきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所された方からの電話でのお話をしたり、施設へ移られた方の訪問をしている。ご家族とは関わりがなくなってしまう。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員が小さな気付きを見逃さないように努力している。困難な事例は職員会議で話し合い、ご本人の立場になり考えている。		利用者様が御自分の気持ちを話せる場を作るようにしていきたい。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントから把握している。センター方式のシートに記入していただいているままの経過を知るように努めている。		職員がセンター方式を活用できるように努力していきたい。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ケース記録を基に職員会議で話し合い、把握できるようにしている。しかし、把握できない方もいらっしゃるのが現状である。		見落とさないようにしていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月一回モニタリングを行い、見直すようにしているが、まだまだご本人の意見は反映されていない。		サービス担当者会議にご家族に参加していただき、本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について話あっていきたい。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直しを行っているが現状に即した新たな計画は作成できていない。		見直しを行い細かく情報収集し、新たな介護計画を作成するように努めたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録をつけ、情報を共有している。会議でモニタリングを行い、意見を出し合っている。		記録を基に介護計画の見直しをしていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	「きまり」にとらわれず、臨機応変に対応できる努力をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアさん(踊り、絵本の朗読)に来ていただいたり、地区の行事に参加していただき気分転換を図っている。本人の意向に応じての支援等はされていない。		これからの課題であるができることから取り組んでいきたい。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	退居時(要支援1となったため)に本人の意向を伺い他のサービスを一緒に検討させていただいた。		これからも必要に応じて対応していきたい。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在行っていない。		今後取り組んで行きたい。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主に管理者がかかりつけ医と一緒に行って相談したり、意見を求めたりしている。		かかりつけ医と事業所の信頼関係を構築していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	必要に応じて同行させていただき相談している。		これからも継続していきたい。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	入居前のサービス事業所の看護職員から情報を得て支援に活かしているが、その後は相談は行っていない。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	ご利用者様のお見舞いに行き安心していただけるようにしている。また医療機関の方から情報をお聞きし手いるが、現在は入院後退院されずに退居に至っている。		積極的に相談するようになっていきたい。
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在はターミナルケアを考えていない。お一人だけご家族から万が一の場合の対応を依頼されている。		会社としての検討課題である。もしご家族が希望された場合は職員、医療機関と話し合いをしていきたい。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	現在は行っていない。		対応できるか検討していきたい。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	生活相談員さんやケアマネージャーさんと情報交換している。		環境が変わることにより受けるダメージが最小限に抑えられるように、話し合いをしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>十分注意している。また職員で話し合い対応方法を考えている。記録等は鍵のかかるところに保管している。</p>	<p>これからも注意していきたい。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>分からないことは丁寧に説明し、納得していただけるようにしている。また本人の意思決定を尊重するようにしている。</p>	<p>職員と申し送りを行い、統一した説明が出来るようにしたい。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>外出や入浴などご本人の希望を聞き対応しているが、2人勤務になると業務や時間に追われ、全てが希望に添って行かないことが多い。</p>	<p>勤務人数の変化があっても柔軟に対応できるように会議で検討していきたい。</p>
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>ご家族にお願いして行きつけの床屋さんで散髪している方もいるが、美容師さんに来ていただきカットしていただく方もいる。髪型は家族の希望通りになることが多い。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食べ物の好みをお聞きし、対応している。利用者様には野菜の皮むきや味付けなど出来る範囲で手伝っていただいている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>健康を考慮してお茶の時間の飲み物、おやつ等で反映している。嗜好品については(酒、タバコ)は現在どなたも該当しない。</p>	<p>体調にも気を使い、日常的に楽しんでいただけるように支援していきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	夜間、日中とも時間を決めて誘導するようにしている。また習慣を理解してリズム掴むようにしている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	いつも午後から入浴にお誘いするので入居者様もその習慣になってしまっている。自立している方は好きな時間に入浴していただくこともある。		個々の希望に添えるように再検討していきたい。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ご本人の希望に応じて昼寝を設けたりしている。夜間もご本人のペースにあわせている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本が好きな方と図書館に出かけ本を選んでもらったり、草取りが好きな方と一緒に庭の草取りをした。		楽しみ、気晴らしの支援が出来ていないので検討していきたい。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持していただいている方はいるが、使えるように支援していない。一緒に買い物に出かけたとき、ご本人のお小遣いで欲しい物を買っている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	バスハイクや日常の買い物に出かけるようにしている。希望があれば、自宅のお掃除と一緒に出かけたりした。またお天気の良い日は日向ぼっこなどを楽しんでいただいている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	バスハイクで皆さん一緒に出かけているが、家族と出かけるのは病院受診が主である。		これからご家族との交流を含めて検討していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話をかけているが、ご家族が希望されない方もいらっしゃる。		手紙のやり取りができるように支援していきたい。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	お誕生会にご家族をお呼びしているが、来ていただけない方のほうが多い。また面会に来たいだけのように声をかけている。		ご家族が着ていただけるきっかけ作りをしていきたい。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	出来ていると思われる。		個々にもっと知識を学び取り組んでいきたい。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日常的には面会時間終了まで施錠していない(玄関、ホール)		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入居者様の所在地は常に把握できるように職員同士声をかけている。また居室で過ごしていらっしゃる時も時々訪室し、確認している。夜は時間を決めて巡回している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬品や包丁類は最初から目に付かないところに保管してある。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	救命救急法受講と避難訓練を年2回実施している。書籍で自己学習にも取り組んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年2回救命救急法を受講している。		マニュアルを作成し、期間を決め訓練を行うようにしていきたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回避難訓練を行っている。また地区の防災講座に参加し、非難経路を確認している。運営推進会議で地区の方の協力をお願いしている。		避難訓練に夜間想定もとりにいれていく。また、地区の災害訓練も参加していきたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	お一人お一人の個性を大事にしていく上で、起こりうるリスクを説明し、理解していただいている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルの変動や食欲、顔色等の変化に気をつけ、異変の発見に努めている。申し送りや記録により正確に情報が共有され対応策に繋がっていると思う。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の理解はまだ不十分である。服薬支援は投薬間違いをおこさないように2人の職員で確認し、ご本人が確実に服用するまで見守り、介助を行っている。		疾病を理解し、薬カードを基に個々に勉強する
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	献立に乳製品を取り入れている。また水分補給もチェックし、足りない方にはために飲んでいただくようにしている。必要に応じてお腹のマッサージも行っている。		これからも色々工夫して取り組んでいきたい。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	行っているが、拒否が強い方もいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	食事量、水分量を記録し、状態を把握している。		
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	マニュアルを作成している。感染症予防に手すりの消毒、手洗い、うがいを実施している。予防接種は職員、インフルエンザ入居者様全員実施。		マニュアルも随時見直しを実施したい。研修にも積極的に参加していきたい。
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>	マニュアルを作成し、実行している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>	庭は和風で親しみやすい。塀で囲まれているため、外部の人は入りにくいと思う。		検討課題である。
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	季節の装飾を工夫している。		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	共有の食堂の他に和室がありそこで横になって休まれる方もいらっしゃる。ソファも活用している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今までご本人が使用していた物を持ってきてもらっている。装飾の手伝いをさせていただき「その人らしい空間作り」を工夫している人もいる。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気、温度調節には十分配慮している。		必要に応じて話し合い、職員同士、協力しあって対応していきたい。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全面では、各箇所に手すりが付いている。身体機能を生かすために居室のドアの手すりを低くし、手が届くように工夫した。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレをわかりやすくするために、「便所」と表示したり行き方がわかるように廊下にテープを貼っている。また出来ることは「見守り」重視で、ご本人にさせていただきようにしている。		これからのことも見越して職員同士検討・話し合いをしながら、個々に応じて重度化の対応策も考えて準備していきたい。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭を散歩したり、縁側で外を眺めて過ごされている。プランターの花の「水遣り」をしてもらっている。		建物(塀周り)は道路に面しており、交通量も多いので散歩には危険が伴う。地区の人々との交流を深めるためにも、散歩が出来る環境を作っていきたい。

サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・誕生会には、職員の手作りケーキでお祝いしている。またバスハイクに出かけみんなでお食事を楽しんでいる。